

日付	12/16 (水)	人数	30人			
参加者	ゆうゆう学園（西播磨高齢者文化大学）					
主な意見						
(山や農地の荒廃や農業の担い手不足の解消)						
<ul style="list-style-type: none"> ・山の荒廃が進んだことによって、河川の氾濫が増えているように感じる。また、過疎地の農業の担い手不足が顕著で、農地の荒廃も進んでいる。若者の就農を進め、食糧自給率をアップするような取組みが必要。 						
(人口減少が進み地域コミュニティの維持が難しくなっている)						
<ul style="list-style-type: none"> ・老人会が解散した地域が多く、地域との繋がりも希薄になっている。老人会の復活が必要である。 						
(働く場所の確保が地域の定着につながる)						
<ul style="list-style-type: none"> ・若者が地元で働くことができる場の確保が必要。テクノへの企業誘致をさらに進めてもらいたい。 ・10年後は役員が誰もいなくなる。小中学生がおらず、高齢者ばかりの状況。子どもが帰ってきたくなるような魅力ある田舎づくりをする必要がある。 						
(分散化を促進するため、生活インフラの整備が必要)						
<ul style="list-style-type: none"> ・地元に医療機関がなく、いつも困っている。テクノに高度医療機関があれば有り難い。 ・限界集落に住んでいる。コンパクトシティの考え方もあるが、田舎に住んでいる者は住み続けたいと思っている。医療や働く場など、田舎でも安心して暮らせるよう、テレワークや遠隔医療、通信インフラ整備など、全国に先駆けて進めてほしい。 						
(ある程度の集約化が助け合いを醸成する)						
<ul style="list-style-type: none"> ・共助のためには、ある程度の集約化が必要。その上で、環境創造型の農業を進めてはどうか。休耕田や空き家を上手く活用できれば良い。 						